

# 熊本学園大学 外国語学部 第22号

## 英米学科 GAZETTE

令和3年8月  
発行・編集  
熊本学園大学 外国語学部

### 巻頭言

#### 英語の学びと活用の意義

佐藤 勇治(教授/スピーチコミュニケーション)

Happiness smiles in the same language. これは 1972 年のミスアメリカコンテストのミネソタ州代表になった Linda Hagen さんの言葉である。彼女は外国人どうしの相互理解のためには共通の言葉が大切であることを伝えたかったのだと思うが、その共通の言葉で世界のあらゆる分野で最も多用されているのが「英語」である。英語は、語彙の豊富さ、26 文字であらゆることを表現できる利かさ、相対的に簡単で覚えやすい文法構造など、世界共通語としての資質を備えている。このような英語をその言語系統において極めて縁遠い日本語を母語とし、かつ外国語として学ぶ日本人からすれば、

英語を学習すること自体が面倒であり、入学試験や就職試験に合格するために仕方なく勉強する場合も多いかもしれない。しかしながら、私達はもう一歩視野を広げたところで、世界中の事物を英語で学ぶことができ、世界中の人達と英語を通じてコミュニケーションがとれ、自分の生活と仕事をより豊かにすることができることを確認しておきたい。日々何となく英語を学んでいる人たちには、特にこの点を意識して取り組んでいただきたい。なお、英語だけでなくが事足りるわけではないので、私達は接する人達がどの国や地域の人達かに応じて、英語以外の言語も同様に学ぶことを忘れてはならない。私達は、言語の学びを通じて人や社会や文化を知り、世界をよりよく理解し関わるができるようになるという、外国語学部の原点を折に触れて思い出したいものである。

### ゼミ紹介

Ostman, David (講師/英語教育・異文化理解力・異文化コミュニケーション論)

仮に自分が様々な国から集まった人々とプロジェクトに参加すると想像してください。文化的背景が異なるのでメンバー一人一人の考え方やコミュニケーションスタイルも必然的に異なります。このプロジェクトを成功させるために異文化理解能力が必要となります。この能力は文化的知識とコミュニケーション能力だけではなく、自国の文化を理解した上で、相手と共感し相手の視点から考えることによって深く理解する能力です。

グローバル社会において必要なのは、文化や言語の違いは当然のことですが、まずは、身近にいる年齢や性別が異なる人々と自分との立場を置き換え、その立場から物事を見て考え、理解することから始めます。異文化を理解する事ということは、外国人を含む多様な背景をもつ人々と共存する上でとても重要な要素であり、これからの社会で活躍するために、必要不可欠であると考えています。

その手段として、説話文学(伝記・自伝・短編小説等)を利用します。ストーリーは様々な世代や生活環境、そして文化的背景から書かれたもので、共感能力(視点転換能力)を生かしながら、他者の心情と状況を深く考察します。本演習ではストーリーを読み、登場人物の文化や状況を分析し、理解を深めます。グループ・ディスカッションで個人的発見や意見、情報などを発表し、最終的にそれを熟考した上でゼミ論文を仕上げることを目指します。

本演習の目標としては異文化的知識や理解を深めることとストーリーの登場人物の視点転換を取ることによって新しい世界観を得て、様々な立場から物事を考慮できるようになることです。多様な社会に積極的に参加して行く学生にとって、説話文学の研究を通して成熟した視点転換能力を築き、さらに社会貢献力を高めることも本演習の目的です。

### 学科最新ニュース

今年度の中学・高校での教育実習が終わり、7月3日に反省会が行われました。当日は来年度実習予定の後輩たちが参加し、実習について



高校実習の学生たち

英米学科長 塩入 すみ

で活発なやり取りが見られました。コロナ禍にも関わらず実習が実現できたことは何よりも有難く、学生には貴重な経験となりました。



中学実習の学生たち

## 教材紹介

### The return of word cards: Quizlet

Joseph Tomei

(Professor / Department of American and British Studies)

When I first came to Japan, there was no internet and no smart phones. (hard to believe, I know!) One thing that I remember from that time was that students often used small packs of word cards (単語帳) to study. On busses and trains, you could always see at least one student looking thru their word cards, something that has largely disappeared.

This year, I was contacted by the people who make quizlet (quizlet.com), asking me if I wanted to use the application in the class. I had used it when I was in Korea to study Korean, so I knew it was a good app for self-study, but wasn't sure how I would incorporate it into class, but they said that they would give all the students free memberships, so I went ahead.

Quizlet allows you to make study sets of words and phrases, which is just like the old word cards. But unlike the old word cards, you can search for quizlet sets that other people have made and either download them into your app or add them to sets you are making. Because it is an application developed in the US, there are lots of sets for English to different languages.



They've also added the ability to add images and diagrams to the cards. For English, they have text to speech so you can hear the words if you want to check out the pronunciation. You also have 7 different study modes, which are Flashcards (use them like the old fashioned word card), Write (where you have to type in the answers), Spelling (where the app reads the word out and you spell it), Test (which gives you the set as different kinds of questions), Match (where you are timed to see how long it takes for you to correctly match the terms and the definitions), and Gravity (for people who like games!)

For class, I'm using a set cards from BEST-TOEIC (<https://quizlet.com/BEST-TOEIC>), level 400, with 20 words each. That link has levels 300, 400, 500, 600 and 730. One student, who is a regular user of quizlet, when they took their TOEIC, they had a 57 point gain. I don't think it is just the app, but I think the app had a big part in helping him.

If you are interested in quizlet, check it out at [quizlet.com](https://quizlet.com). Buying the app for students takes away the advertising and lets you work offline, so students can do fine with the free version. A Quizlet teacher account allows you to create enhanced materials and lets you track student progress. There is also a quizlet Live, which is a real time game that individual students or teams can play. Please contact me at [jtomei@kumagaku.ac.jp](mailto:jtomei@kumagaku.ac.jp) if you would like more information or help. If there is enough interest, I can arrange an online workshop to show you this app!

# Quizlet

## 書籍紹介

### 門田修平編著『英語のメンタルレキシコン』(2003)

坂田 直樹(准教授/心理言語学・応用言語学)

皆さんは、頭の中に、英単語がどのように入っていると思いますか。“How was your weekend?” というような質問をされた時、適切な単語を正しい順序で思い浮かぶためには、少し時間がかかるかもしれません。なぜ、英単語は日本語の単語よりも、思い出すことが難しいのでしょうか。そのような疑問を心理言語学的アプローチで解決するための書籍として、今回は、(初版 2003 年と少し歴史を感じますが)『英語のメンタルレキシコン』を紹介します。(メンタルレキシコンとは、頭の中の辞書という意味です。)

この本では、「読んで意味が分かる単語 (=受容語彙) よりも話したり書いたりすることができる単語 (=発表語彙) の数は少ない」「母語と学習中の言語では、同じ意味の単語に対する連想も異なる」といったこれまでの研究成果の紹介があります。単語を表現できる

ようになるためには、実際に話したり書いたりする練習が必要だということになりますし、母語と異なり、触れる時間が限定される外国語としての英語では、例えたくさんの単語を知っていたとしても、頭の中での密度は異なるということになります。このような点は、恐らく皆さんの英語学習のヒントにもなるのではないのでしょうか。

この本を手にとって、英単語の知識を科学的に探究してみませんか。松柏社、2,600 円+税。



編集人 塩入 すみ(英米学科長)

〒862-8680 熊本市中央区大江 2-5-1

TEL: 096-364-5161(代表) Mail: [shioiri@kumagaku.ac.jp](mailto:shioiri@kumagaku.ac.jp)